

## 【北海道釧路湖陵高等学校】学際領域学科（令和6年度設置）

### 【設置の目的】

- SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題に対応した、学際的・複合的な学問分野等の最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組むことにより、生徒が将来の国際社会及び日本社会で求められる資質・能力を育成すること
- 探究的な学習を重視したカリキュラム及び教育方法の一層の改善・充実に取り組むことにより、普通科を含めた他学科における「総合的な探究の時間」など探究的な学習の充実に向けて牽引・先導する役割を担うこと

### 【令和6年度の目標】

- コンソーシアムを活用し、個別の探究活動と関係機関との連携体制の強化
- 同事業指定校との情報共有と連携体制の構築
- 学校説明会・中学校訪問に係る広報活動
- 教育課程の工夫・改善
- 事業成果の適切な評価の実施
- 事業終了後の自走できる校内体制の構築

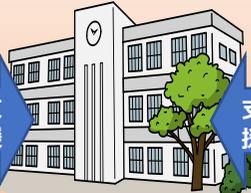
### 【関係機関との連携・協働体制の構築】

#### コンソーシアム「チーム湖陵」

#### プロモーター

釧路市内の企業・  
団体・高等教育機  
関等で構成

支援



支援

#### サポーター

道内外の研究機関・  
高等教育機関で構成

コーディネーターを中心に、生徒の探究活動に対応する多種多様な大学、国の機関、自治体、事業所、研究機関等とのコンソーシアムを活用(プロモーター25団体、サポーター31団体が参加)

### 【主な取組】

- 探究的な学習における「チーム湖陵」による専門的な助言
- 先進校視察及び視察校の受け入れの促進
- 学校案内・学校説明会の工夫・改善
- 教育課程の工夫・改善
- 評価方法の工夫改善
- 組織改組と「校内コーディネーター」の指名

### 【成 果】

- 生徒の探究活動における「チーム湖陵」との連携
  - ・ 探究的な学習における専門的な視点からの助言・指導体制の構築
- 同一事業実施高校との視察等を通じた連携体制の構築
  - ・ 視察校受け入れ、コーディネーター研修を通じたネットワークの構築
- 外部講師を活用した各種講演会・講話による生徒の思考力の育成
  - ・ 様々な分野の講師を活用し、生徒の興味・関心を高める講演会の実施
- 「探究的な学び」の発信
  - ・ 在校生の視点を生かした学校パンフレットの製作、学校説明会の実施
- 3年間の取組と成果を踏まえた教育課程の編成
  - ・ 「探究に係る学校設定教科」の工夫・改善による教育課程の編成

### 【課 題】

- 国内外の高校と大学等の連携
  - ・ 個別の探究活動と関係機関との連携体制の強化
- 教科等横断型（PBL）授業の推進
  - ・ 年度当初に、各教科年度計画に教科等横断的な授業を取り入れた年間計画の作成と実践
  - ・ 「KQ」において、SDGsなどのテーマを定めた各教科等の横断型授業の立案
- 令和7年度以降の持続可能な体制づくり
  - ・ 校内体制整備と校内コーディネーターの業務の軽減及び育成に向けた研修体制の充実

【令和7年度の目標】 探究的な学習における持続的可能な校内体制の構築と学際領域学科における教科等横断型（PBL）授業の実践

【北海道大樹高等学校】地域社会学科（令和6年度地域探究科設置）

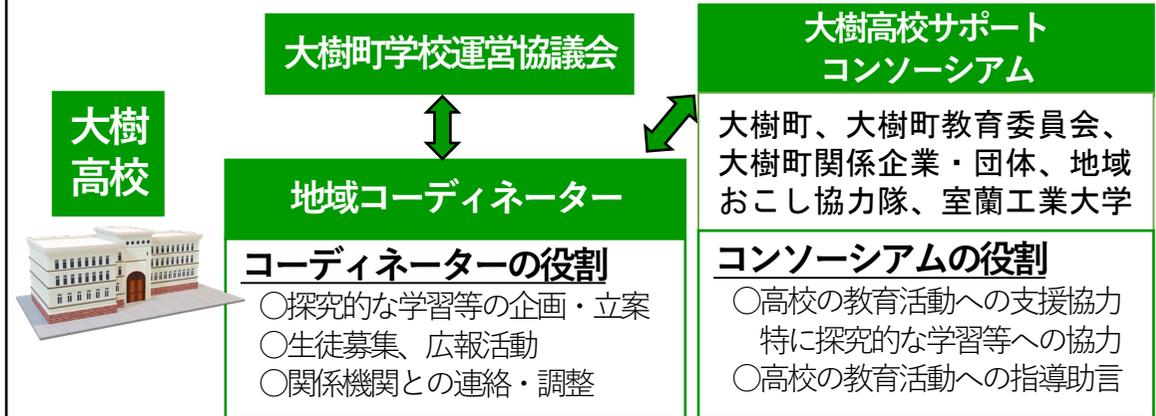
【地域探究科設置の目的】

- 地域共創・共生社会の実現とそれに必要な資質・能力を育成すること
- 「総合的な探究の時間」など探究的な学習の充実に向けて牽引・先導する役割を担うこと

【特色・魅力ある取組】

大樹スタンダード	大樹学PLUS	大樹高STEAM
ユニバーサルデザイン及びダイバーシティ、インクルーシブによる授業改善	総探と台湾国際交流を核とした多様性・共生社会の理解	室蘭工業大学等との連携や町内関係企業との連携によるSTEAM教育の推進

【関係機関との連携・協働体制の構築方法】



【令和6年度の目標】

- (1) 新たな学校設定教科・科目を配置した教育課程を編成
- (2) ICT環境を活用した、学習者主体の個別最適化学習体制の確立
- (3) 地域の異校種と連携した「大樹学」における小中高一貫キャリア教育プログラムの完成
- (4) 各学年の探究学習を接続し、3年間を見通した探究学習のプログラムの完成
- (5) 地域社会の持続的な発展や価値の創出に向け、生徒がより主体的に関わる探究学習への転換
- (6) 生徒による地域課題の解決方策等についての町への提言を踏まえ、高校生が地域が協働して町づくりに参画することにより、地域の活性化及び地域との共創の進展
- (7) 室蘭工業大学等との高大連携プログラムの推進による教科等横断的な学習の改善と発展
- (8) JAXAのエアロスペーススクールのプログラムに参加生徒のほか、プログラムの一部を他の生徒にも提供

【取組状況】

- 達成
  - △一部達成
- (1) ○
  - (2) ○○
  - (3) ○○
  - (4) ○○
  - (5) ○○
  - (6) ○○
  - (7) ○○
  - (8) ○○



【成果と課題】（○成果、●課題）

- 普通科改革支援事業についての町や関係者の理解の促進
- 校内における組織的な推進体制の整備
  - ・地域探究委員会の定期的な開催、計画の推進
- 生徒の学校や地域を愛する気持ちの表出、地域との共生・共創の実現
- 地域に係る探究活動後に実施した評価アンケートにおける満足度の上昇、又は高い数値での維持
- 生徒が進路について考える意識の向上と進路実現
  - ・高校入学前に比べ、高校卒業後の進路についてより真剣に考えるようになった割合 100%
  - ・生徒の進路希望の進路実現率 100%
- 総合的な探究の時間及び「地域デザイン」の系統的な計画づくりと実践による改善の継続
- 本校におけるさらなる授業改善の取組の推進
- 持続可能な組織づくり（属人化しない、引継ぎができる、見通しをもった人材育成、後継の育成など）
- 進路実現率100%の継続

【岩手県立大槌高等学校】地域社会学科（学科名：地域探究科）（令和6年度設置）

事業構想

「大海を航る大槌（ハンマー）を持とう」を実現し、  
「学ぶことが楽しい」「もっと学びたい」と思う  
魅力的な学びの環境を地域と共に創る

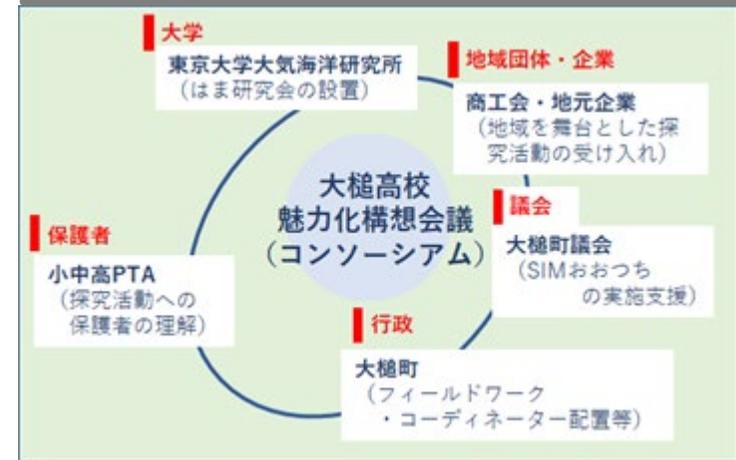
事業目的

- ・多様な学びを保障する個別最適化されたカリキュラムの実現
- ・復興を担う人材の育成、社会教育の拠点としての高校の実現

特色・魅力ある  
教育の概要

- ①生徒自らが選択・調整できる学び
- ②地域社会を舞台に学ぶ実践的な問いからはじまる
- ③放課後等の学校外に広がる探究的な学び
- ④個別最適なりメディアル教育の実践

関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和6年度の目標

①開設された新学科における教育活動を実践しながら充実を図る

ア) デュアルシステム、社会教育の単位認定、等を中心とするカリキュラム開発

イ) 個別最適な学びについての検討

ウ) 中学生とその保護者・地域に向けて新学科の効果的な周知

②地域を題材とした探究の実践と充実

③先進校事例の収集と情報交換の実施

④コーディネーターの有機活用

取組状況

①全教員からなる3つのワーキンググループ(WG)設置



②地域を題材とした探究の実践と充実

・地域探究の取組を町議会、地域公民館で発表し、地域の声を聴く機会を得た。

③先進校事例の収集と情報交換の実施

・全国の13校と交流を深めた。

④コーディネーターの有機活用

・探究活動の企画、推進役として、地域協働を推し進めた。

成果と課題

①全教員からなる3つのワーキンググループ(WG)設置

成果：新学科設置を受けて全教員が事業に主体的に関わる体制づくりの構築（全体）カリキュラム実施・推進に向けた具体的な計画と検討（教育課程の修正、デュアルシステム、社会教育の単位認定）について検討（カリキュラム）生徒・保護者の声を受けた個別最適な学び（英語・数学）の実施とICT教材を取り入れた授業開発（DX）生徒の活動や関係者の想いが伝わるようなnoteにおける発信に注力し、様々な活動の周知を図った（周知・広報）

課題：現在の活動を円滑に維持・発展できる体制づくり（全体）デュアルシステム、社会教育の単位認定に向けた関係機関との調整（カリキュラム）個別最適な学び（英語・数学）のICT化に向けた授業作り（DX）地域の小中学校生や保護者に本校への理解をいかに深めてもらうか検討（周知・広報）

②地域を題材とした探究の実践と充実

成果：生徒自ら地域に出て、地域の人々の前で発表し、協働することで、自らの人生を切り拓き、挑戦しようとする生徒が増加

課題：地域との協働が進むほど、特定の生徒・グループに負荷がかかってしまう

③先進校事例の収集と情報交換の実施

成果：多くの学校と探究活動、地域との連携、教育課程、職業体験、県外留学について意見交換を行い、本校の教育活動にいかすことができた

課題：より多くの教職員が他校交流に参加できる体制の構築

④コーディネーターの有機活用

成果：探究活動のさらなる充実を図り、地域と学校を繋ぐ役割を担った

課題：事業終了後も継続配置できる予算措置とコーディネータースキルの教員への伝達

⑤高校魅力化評価システムの調査結果

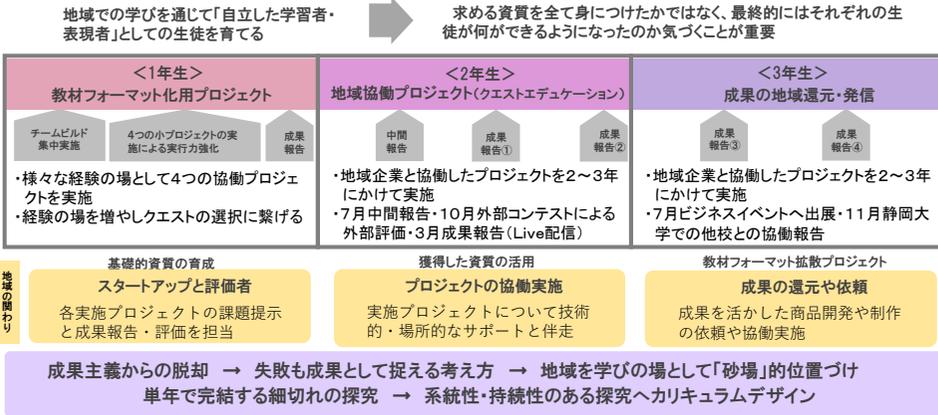
成果：ウェルビーイングに関する通知をはじめとして全体的に入学時からの数値が着実に上昇しており、魅力的な学びの環境を地域と共に創るという事業構想の具現化が確認できた

課題：現体制の維持、発展ができる体制の整備が必要であり、継続して研修の機会を持つ

# 【浜松学芸高等学校】探究創造科（地域社会学科）（令和6年度設置）

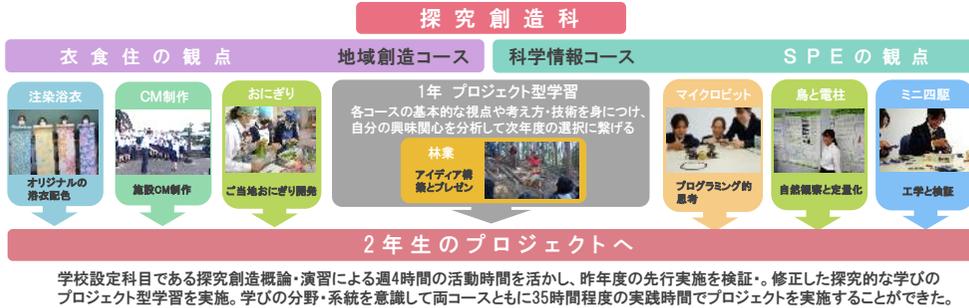
## 探究創造科設置の目的と教育の概要

将来予測が困難なこれからの社会で生きる子供たちが、正解のない問いに挑む上で必要な諸能力を用いて自らの力で未来を切り拓いていく人材として、「自立した学習者・表現者」を育成する。

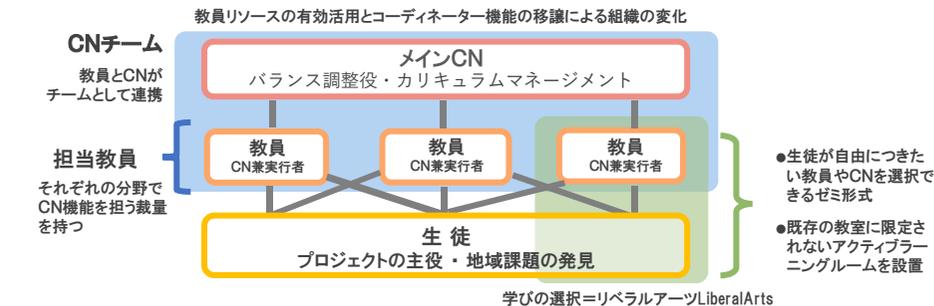


## R6年度の目標と状況

### 1. 新学科設置後の高1学年におけるプロジェクト型学習プログラムの実施検証



### 2. 複数人によるコーディネート体制の強化による事業終了後も持続的に活動体制の構築



探究創造科担当教員がそれぞれに得意分野の領域を担当することで、外部との連携やプロジェクトの実施計画などCN機能を分担すること可能になった。学びの分野を広範囲を包括する内容にすることで、様々なプロジェクトを実施しやすい環境を構築することができた。

## 協力体制の構築



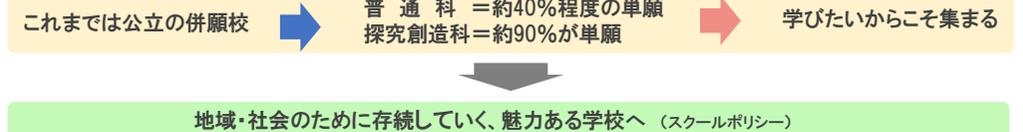
## 成果と課題



## 探究的な学びを実践するための5つのポイント



## 5年連続で定員を充足しており地域に探究的な学びへのニーズがある



探究的な学びのカリキュラムやプロジェクトの手法について、実践研究の成果として自校独自の手法を考案することができた。一方で、実行のためのノウハウの共有が必要で、多くの教員が関わるための手法や教材のマニュアル化が必要であった。現在、3年間の探究的な学びのロードマップを作成して、活動を視覚化して共有化を進めている。多くの実践を実行するためにコンソーシアム組織の活用や地域企業と繋がる仕掛け作りにも進んでいる。プロジェクトの同時実行数が増えることで活動場所や費用、担当教員の不足などの問題も見えてきた。適切な活動量へとコントロールすることが重要であり、研究指定以降、探究的な学びのカリキュラムを持続させるために改善が必須だと考えている。現在、適切な活動生徒数に向けて高校入試の改善に取り組んでいる。



## 【京都市立開建高等学校】ルミノベーション科〈地域社会学科〉（令和5年度設置）

## 設置の目的

- ◆学びのモチベーションを高める探究的な学びを重視したカリキュラムの構築
- ◆京都の都市特性を最大限に活かし、未来を創造する力を育む教育活動の確立

## 特色・魅力ある教育の概要

## (1) 授業が変わる

- ◆未知のことや課題に対して生徒が自分で問いを立て、解決の方法を見出す探究的な学びを重視し、生徒の「学びたい」という意欲をかき立てる授業を行う。また、仲間や社会との対話・協働を通じた学びも重視し、多様性を大切にできる態度を涵養する。
- ◆1つのラーニングポッド（L-pod）での活動は複数の教員で指導し、生徒を多面的にサポートし、生徒一人ひとりに応じた学びを支援する。
- ◆机を自由に配置できる普通教室4つ分の広い学び空間<L-pod>を新校舎の特徴的な設備として整備し、教室のサイズ・形態を自在に変化・転換し、授業の目的や活動内容、また生徒の学びやすさによって、多様な学習活動を展開する。

## (2) 魅力あふれる京都をフィールドに実践する探究活動

寺社仏閣や伝統文化、企業のまち、大学のまちなどの都市特性を存分に発揮し、幅広い機関と連携して、生徒が京都で学ぶ価値を享受できるように、多様で奥深い京都の都市特性に触れるフィールドワークや、課題の発見と解決、京都のさらなる魅力発信にも寄与する探究を行う科目を設定し、3年間を通して生徒が探究活動を行う。

## (3) 生徒が夢中になれる課外活動

生徒が自由に活動を企画できる「New HORIZON Day」、地域や大学等と連携した活動プログラムなど、生徒自身がやりたいことに主体的に挑戦できる課外活動の機会を地域協働コーディネーターと協力し創出する。

## 関係機関との連携・協働体制の構築方法

## 地域協働コーディネーター

- (1) 授業の企画・運営の助言・支援
- (2) 地域協働のネットワークの強化

京都市立開建高等学校

魅力あふれる京都

地域協働コーディネーター  
高校コンソーシアム京都

## 地域協働のアクターとなる企業、団体等

- ・京都市南区周辺のグローバル企業・中小企業、行政、任意団体と広く連携
- ・高校コンソーシアム京都や京都市、中小企業家同友会等を通じたきめ細かな協力体制

## 令和6年度の目標

- ◆L-podにおける複数教員による対話・協働を軸とした指導の可能性を開拓し、個に応じた支援を通じ、生徒の主体的な学びを具体化する。校外からの授業評価を通じて、実践を洗練する。
- ◆京都をフィールドとした探究活動を行い、生徒が「やってみたい」ことを十全に探究できる支援を行い、生徒が探究したことを基に校外に過程・成果の発表を行う。
- ◆生徒の「やってみたい」を実現する課外プログラムの件数の増加と参加率の向上を目指す。また各プログラムにおいて生徒が多様な視点を持つ人と協働・交流しながら、意欲・実践力を高められるよう内容を充実する。

## 令和6年度の実行状況

- ◆L-podを活かした授業の形態の検討と研修を通じた校内議論の活性化
- ◆「京都探究」など地域をフィールドとした探究学習の多様化
- ◆「協創II」において生徒が探索を通じて課題設定をやりきれるよう支援体制の整備
- ◆地域協働コーディネーターの活用による地域との連携強化
- ◆生徒の「やってみたいをやる」課外活動に参加を促す体制・方法の確立
- ◆教育研究大会の開催や、他の指定校、大学等と連携した外部評価と幅広い「やってみたい」の機会創出

## 成果と課題

- ◆L-podを活用した指導体制のモデルが昨年の3倍に増加。授業設計を問い直す機運が醸成された。教科・チーム単位の実践交流やOJTによる支援体制の向上と、生徒の3年間を通じた変容分析が課題である。
- ◆地域協働コーディネーターの活動もあって、京都をフィールドとした探究の協力先が増加し、継続的な支援も得られるようになった。生徒が自ら協力先を開拓する事例も複数あった。より奥深く長期にわたる協働に生徒が主体的に向かうことを支援する体制の模索が課題である。
- ◆探究学習を通じて、生徒が「やってみたいをやる」件数が増加した。外部の発表等で評価を受ける生徒も増加した。積極的な活動に乗り出す生徒の割合や、学年を超えた対話・協働の促進が課題である。
- ◆課外活動に参加する生徒の割合・件数が増加した。また、学校づくりに参画する生徒も増加し、全校生徒に関わるルール変更も複数あった。継続的な活動を実現する方法が課題。
- ◆教育研究大会および多くの視察や取材を用いて、3年間の研究開発の内容を発信することができた。継続した発信と外部評価を受ける仕組みの構築が課題。

## 【兵庫県立柏原高等学校】地域社会学科・地域科学探究科（令和6年度より設置）

## ● 「地域科学探究科」（地域社会学科）

育成する  
資質・能力

- ・地域課題を理解し、地域活性化や課題解決に向け積極的に関わることのできる資質・能力
- ・他地域との比較や、世界的な課題との関連を探る活動を通じて多様な価値観を理解できる資質・能力
- ・生活体験や地域での学び、交流から、他者と自分の差異に気づき、差異を生かす方法を考えることができる資質・能力

## 【特色ある教育活動】

- ・地域を対象とした探究活動の展開、論文作成・発表
- ・英語を含めた表現力を活用した地球規模の課題解決へのアプローチ

## 令和6年度の成果

## 総合的な探究の時間の開発

## 【主な取組】

- ・「丹BALⅠ」（第1学年）  
新たなテキストや講演会等による探究の手法の習得し、ミニ探究から基礎実践探究
- ・「丹BALⅡ」（第2学年）  
「丹BALⅠ」で培った力を利用し、地域をヒントに自己の興味関心に基づいた応用実践探究
- ・「地域課題から世界を考える日」の開催（校内）  
「知の探究」発表会（校外）
- ・探究記録集の発行

## 【課題】

- ・関係機関等との連携
- ・探究活動と各教科の授業との連携

## 学校設定教科・科目の開発

## 【主な取組】

- ・学校設定科目「グローバル」の実践  
(第3学年選択)
- ・オンラインによる国際交流  
テーマ設定と個人研究の実施
- ・教科横断型探究の年間指導計画の構築  
テーマ「愛を探そう！」

## 【課題】

- ・研究成果の引継ぎ、担当外の教員との年間指導計画等の共通理解（探究活動との連携）

## 成果普及・情報発信

## 【主な取組】

- ・学校ホームページでの情報発信
- ・他校との発表会、中学校での発表会への参加
- ・校内発表会や地域イベントの新聞掲載
- ・兵庫県立高等学校探究活動発表会への参加、交流
- ・報告書の作成、配付
- ・視察校の積極的な受け入れ

## 【課題】

- ・大学等が実施する発表会、研究会等への参加
- ・オープン・ハイスクールや学校説明会等での中学生への説明
- ・教員レベルでの中学校訪問

## 教員の意識・資質向上

## 【主な取組】

- ・研究推進部の設置と教職員の意識・資質向上研修
- ・研究推進部主導による探究的な学習により、生徒とともに教員のスキルアップも目指す

## 【課題】

- ・探究活動に対する共通理解及び指導技術の向上
- ・コーディネーター、関係機関と連携した探究活動の実施
- ・探究活動と連携した教科指導の研究および試行

## コーディネーターの取組

## 【主な取組】

- ・コーディネーターによる、校内と外部との調整
- ・外部との連携による、新たな探究活動の提案
- ・令和6年度地域科学探究科に伴う活動支援
- ・探究活動を行うプログラムの協力、支援
- ・探究活動での確かなタイミングで生徒への助言

## 【課題】

- ・校内外との連携体制の構築
- ・本事業終了後のコーディネーターの確保

## 関係機関等との連携・協力体制

## 【主な取組】

- ・探究活動等への外部講師の招聘
- ・運営指導委員会の開催  
⇒取組に対する助言、指摘等
- ・丹波市役所、丹波市教育委員会等との連携

## 【課題】

- ・コンソーシアムの構築に向けた取組

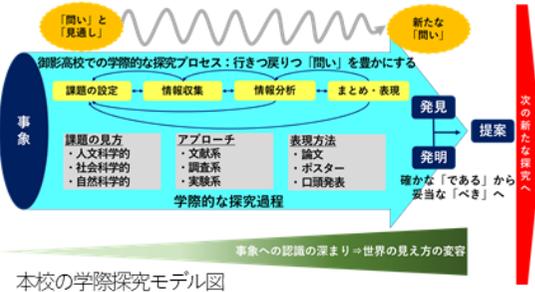
# 【兵庫県立御影高等学校】学際領域学科（令和6年度設置）

## 学科設置の目的・特色ある教育の概要 / 予測不能な未来において活躍できるリーダーを育てる

### 学際的に取り組む探究活動

探究のプロセスを体系的に学び、自らの興味関心に応じた探究活動や、地域に関する探究活動に学際的に取り組む授業を設定し、生徒個々が主体的に探究を実践

- Cross I** 3つのコアトレーニング  
地域のエエとこプレゼンテーション・プチ探究
- Cross II** 地域探究プロジェクト  
アカデミックリサーチ
- Cross III** 探究論文・後輩に対するメンター活動



### 主体性 協働性 課題解決能力 言語表現スキル 多様な認識

#### 兵庫県立御影高等学校 文理探究科 グラデュエーションポリシー

地域や国際社会のありようにしっかり目を向け、社会に貢献しようという志をもち、さまざまな事象の解決や是正、および、原因の追究に粘り強く挑戦し続けることができる生徒

人文・社会・自然科学の専門知識を深め、事象を多面的に認識ができるようになるとともに、自らの読解力や論理的思考力を磨き、新たな価値を見出だそうとする好奇心をもつ生徒

地域や国際社会に生きるさまざまな方と対話を重ねつつ、自ら学び、考えて行動できる主体性や、周囲の仲間と協働しながら物事に取組む中で、リーダーシップが発揮できる生徒



### 校外機関との連携 (★はMIKAGEコンソーシアム参画団体)

コーディネーターを活用し、新たな思考や新たな価値観、知的好奇心を育むために、大学や行政、研究機関、企業や社会貢献を行う団体等と連携した教育活動を実践

### 学科独自の開講科目

教科の専門知識を幅広く学べるとともに、実社会で活かすことができる「読解力」や「論理的思考力」「対話力」「表現力」等を磨くための科目を設置

**Creation I・II**  
校外でのSTEAM教育に関わる講義・ワークショップ、海外の方とのコミュニケーションプログラム、充実したレクチャーやフィールドワーク等を実施する。

**クリティカルシンキングA・B**  
Society5.0を生き抜く生徒を育てるために「読解力」や「論理的思考力」、「対話力」、「表現力」等を磨くとともに、主体的に他者に伝えたり、他者と伝え合ったりすることで、自らの考えを発展させる体験を行う科目として設置する。

**Creative Presentation A・B**  
英語運用能力の強化やスピーチに必要な能力の向上も図りつつ、選んだテーマに関し、情報や自分の意見を加えて発表するスピーチセッションを英語で実施。発表だけでなく、司会や助言等の役割を行う経験を積む。

## 令和6年度の取組成果・課題 / 広がる学び、多彩な未来



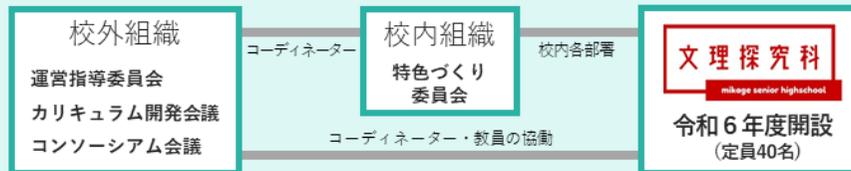
### 新学科対象の授業の本格実践

- 成果**
  - Cross I 文系志向・理系志向の生徒が混ざり合って探究したことで、文理融合的な探究プロセスが実現
  - Creation I 先行実施の成果があり、充実した実践が実現

- 課題**
  - プチ探究のテーマ設定の在り方の検討
  - 選択STEAM講座の折衝可能時間の短さ
  - 連携団体内の異動も鑑みた継続的な講師派遣

### コーディネーターによる業務の明確化と今後の在り方検討

- 成果**
  - 年・学期単位で業務分担を明確化
  - 毎月の情報交換会（コアタイム）設定
  - 今後の在り方を検討する機会を設定
- 課題**
  - 令和7年度以降の在り方の検討
  - 非常勤であることによる外部折衝への制約
  - 校内ITリソースへのアクセスの在り方



### 広報活動の充実・継続

- 成果**
  - 年間22回・3100名超の方に向けて広報
  - 近隣中学校主催の高校説明会にも参加
  - 10校からの学校訪問や取材等にも対応
- 課題**
  - 継続的な広報活動の実施
  - 「学際領域学科」そのものの周知
  - 他校等との継続的な情報交換

### 充実したカリキュラムの検討・検証

- 成果**
  - 学びの先行実施（独自科目の学びを中心に先行実施）
  - Cross II・III
  - Creation II
  - クリティカルシンキング A・B
  - Creative Presentation A
- 課題**
  - カリキュラムや指導の在り方の継続的な検証
  - 校内運営体制の強化
  - 評価の在り方も含めた生徒の学びの検証



## 【和歌山県立新宮高等学校】学彩探究科（令和7年度設置）

## 【学際領域学科設置の目的・育成する人材像】

学際的な学び・探究的な学びを実現し、予測困難な現代社会で活躍できる人材を育てるため。

- ①物事を多面的・包括的に捉え、人や自然・文化を大切にできる人材
- ②地域や国内外でリーダー・イノベーターとして活躍できる人材

## 【学際領域学科で育みたい資質・能力】

- ①分野にとらわれない幅広い知識・豊富な技能、およびそれらを活用できる力
- ②創造的・批判的思考力
- ③主体性、協働性、市民性

## 【特色・魅力ある教育の概要】

学際的な学び・探究的な学びを実現するため、総合的な探究の時間・学校設定科目「くまの学彩」の実践、カリキュラム開発、教科・科目等における探究的な学びの研究に学校全体で組織的に取り組む

## 令和6年度の目標

- (A)総合的な探究の時間を深化・充実させること。
- (B)学際的な学びを実現するための学校設定科目「くまの学彩」の研究開発。
- (C)各教科・科目においても探究的な学びを実践するための授業研究。

## 取組状況

- (A)総合的な探究の時間の全体計画を再構築し、各学年の取組を深化・充実。

【1学年】探究基礎・プレ探究 【2学年】分野別探究

【3学年】自己探究

- (B)令和5年度1学年より学校設定科目「くまの学彩」を先行実施

- ◇地域・国内・国外・共通のカテゴリーと観光・歴史・医療・環境・スポーツなどのジャンルを組み合わせ、講演会・校外学習を実施。現代社会の諸課題に触れることで、生徒の興味・関心を刺激
- ◇2年次の分野別探究の課題設定を見据えるとともに、キャリア教育の側面からもプログラムを設計

- (C)教科・科目等における探究学習を実践するため、「6つの資質・能力（問題発見力・課題解決力・創造力・表現力・主体性・協働力）を育む授業」をテーマに授業研究を実施。

## 【運営指導委員会・コンソーシアム】

- 和歌山大学、和歌山県立医科大学、和歌山県教育委員会、ヤマネ・いきもの研究所、新宮市役所、南紀熊野ジオパークセンター、和歌山県世界遺産センター、東京医療保健大学、新宮ユネスコ協会、東京大学、国立スポーツ科学センター
- ⇒①運営指導委員会における指導・助言
  - ⇒②学校設定科目「くまの学彩」での講演・校外学習の企画
  - ⇒③総合的な探究の時間での生徒へのサポート

## 成果と課題

## 【成果】

- ◇令和5年度に先行実施を始めた学校設定科目「くまの学彩」の実践を定着させることができた。
- ◇総合的な探究の時間の全体計画・年間指導計画を見直し、系統性を持たせることができた。

## 【課題】

- ◇教科・科目等における探究学習を全教員で組織的に実践するための仕組みづくり。
- ◇一人ひとりの教員の探究の伴走スキルの向上。

【和歌山県立串本古座高等学校】未来創造学科（令和6年度設置）

令和6年度入学生からの「宇宙探究コース」「文理探究コース」「地域探究コース」の設置に向けて、段階的に調査研究を実施

《設置の目的》

地域の様々な教育資源を活用し、自らの在り方・生き方としっかり向き合い、確固たる世界観や価値観、変化に柔軟に対応していく力、将来への展望等を併せもつ、Society 5.0 を生き抜くために必要な力を育成する

清流古座川、ラムサール条約登録地である沿岸海域のサンゴ群落、世界遺産として登録された紀伊山地の霊場と参詣道、南紀熊野ジオパーク、民間ロケット発射場「スペースポート紀伊」、1890年のエルトゥールル号遭難事件以来のトルコとの交流など、地域の多様な教育資源を活用し、「宇宙探究コース」「文理探究コース」「地域探究コース」の3つのコースをもつ新たな普通科である「未来創造学科」の設置に向けた調査研究を段階的に実施する

《ロードマップ》

R4 R5 R6 R7 R8

【令和4年度・5年度】

- 「総合的な探究の時間」における地域探究学習（ジオパーク・環境・歴史・文化・宇宙・ロケット等）
- 地域資源を活用した学校設定科目の充実（既存科目の見直し、新設等）
- 地域と連携した特別活動・課外活動

特別講演・校外研修

（宇宙・地域の学び）

2年間

- 学科の枠組み
- カリキュラム編成
- 教科・科目の内容などの調査研究

【令和6年度】

- 新たな普通科がスタート

未来創造学科

宇宙探究コース 文理探究コース 地域探究コース

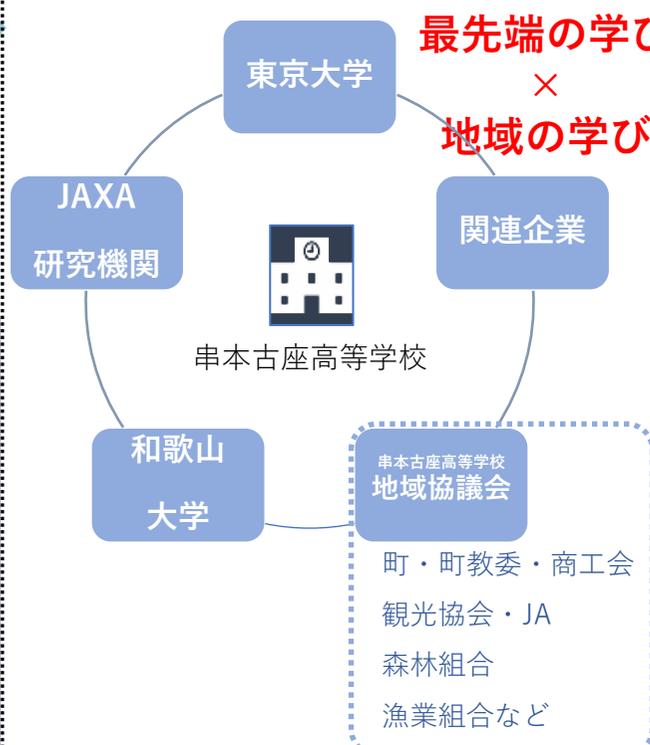
【令和6年度の目標】

- 授業改革を本格化（探究的・主体的・個別最適）

【具体的取組状況】

- 「パフォーマンス課題」の充実
- 「ルーブリック」を活用した授業評価と自己評価の充実
- 「総合的な探究の時間」における地域探究学習の活性化
- 地域資源を活用した学校設定科目の再構築
- 地域と連携した特別活動・課外活動の充実

《関係機関との連携・協力体制》



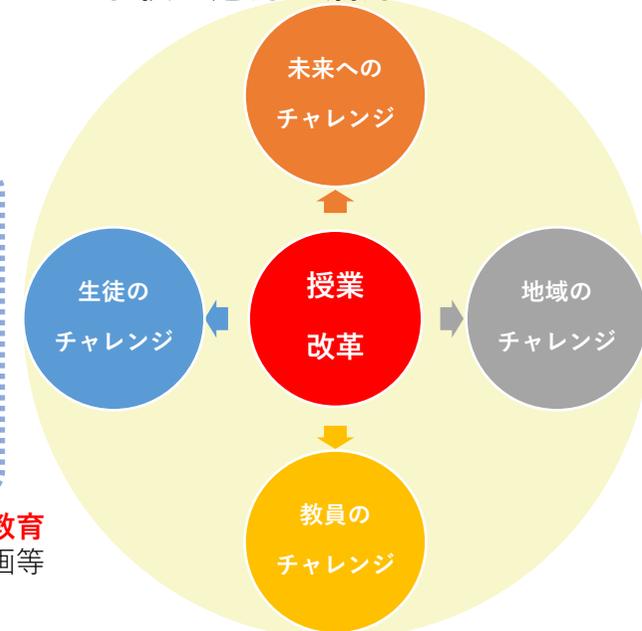
宇宙教育については、関係機関の中から「宇宙教育検討会議」を組織し、学習内容や教材、指導計画等を作成

《成果と課題》

□改革の肝は「授業改革」

- 教職員間の「共通理解」 = 深◎
- 教職員の「授業改革意欲」 = 高○
- 教職員の「探究実践力」 = 中△
- 生徒の「探究推進力」 = 中△
- 学校内外での「評価体制」 = 高○

《学校の魅力・活力！》



# 【和歌山県立橋本高等学校】探究科（令和7年度開設）

00

変化する社会の課題に対応し、自己有用感を持ち社会貢献できる人材を育成する



01

多様な価値観との出会いと自らの考察の深化

02

他者を意識したプレゼンテーション作成と発表能力の向上

03

複合的視点における課題解決方法の模索・発信

## 活動実績

橋本市役所・地元企業インタビュー

プレゼンテーション講演

SDGs大学出前授業

企業訪問（2年）

総合的な探究の時間「創世の翼」中間発表

地元小学校との交流

世界遺産講演・実施研修

データサイエンス講演

海外留学生との交流（和歌山大学・大阪観光大学）

国内高校生オンライン交流（北海道釧路湖陵高校）

SDGs講演

校内全体発表会

橋本市役所への提言

海外高校生世界遺産交流（フィンランド）

海外高校生オンライン交流（フィンランド・マレーシア・台湾・オーストラリア中国）

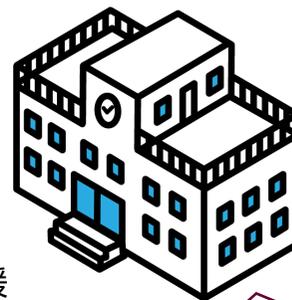
## 関係機関との連携・協働体制の構築方法

### コンソーシアム

公共財団法人ユネスコ・アジア文化センター  
和歌山大学  
JICA  
認定NPO法人日越関西友好協会  
橋本市役所  
大阪観光大学  
株式会社JTB  
株式会社スマイリーアース



海外交流等の支援



指導・助言

### 運営指導委員会

和歌山教育委員会学校教育局県立学校教育課  
橋本市教育委員会生涯学習課・学校教育課  
橋本市役所総合政策部政策企画課  
公益財団法人和歌山県国際交流会  
和歌山大学教育学部  
橋本市国際親善協会

コーディネーター

特色教育推進部

世紀の空経理部門

世紀の空  
推進実行委員会

## 【成果】

総合的な探究の時間「創世の翼」と関連的な活動として学校設定科目「世紀の空」を開設し、探究スキル、教科横断的視点の獲得、普遍的視野の拡大を目的として、世界遺産学習、大学や企業等の外部機関と連携した学習、海外との交流を行った。

## 【課題】

- ・「世紀の空」と「創世の翼」のより効果的な連携と、より組織化した運営方法の構築、教科横断的視点による各教科等との関連付けなどのカリキュラム・マネジメントのさらなる検討。
- ・他の学校行事との重複を考慮した講演・実地研修の時期・内容の見直しとともに、事前事後の学習時間を確保することによる内容の充実。
- ・高等教育機関、企業などの外部機関との連携を強化し、継続的なものにするためのシステムの構築、予算の確保とともに、留学生や国内外の高校生との意見交流や討議のさらなる促進。

【島根県立隠岐島前高等学校】地域社会学科（設置（令和4年度））

設置の目的

離島に位置する申請校および隠岐島前地域の育てたい人材像である「グローバル人材」の育成に向けて、これまでよりもさらにグローバルなフィールドで学ぶ機会や環境を整備するため。

特色・魅力ある教育の概要

「島まるごと学校」をコンセプトに約15年間地域をフィールドに海外の視点も入れながら、地域課題解決型・価値創造型の探究学習を推進し、地域内だけでなく、全国・海外から集まる生徒の多様な興味関心や価値観で切磋琢磨しながら学ぶ土壤がある。



関係機関との連携・協働体制の構築



学校経営会議  
(本事業を学校経営に位置付ける)



共創DAY運営チーム  
(教員・コーディネーター)



推進協議会(学校運営協議会)  
(事業進捗について地域の方とも共有)



運営「共創」委員会  
(外部有識者とカリキュラム共創)

令和6年度の目標・取り組み状況

本構想において実現する成果目標（アウトカム）	R6 目標	達成状況
卒業後のグローバルな進路選択者(スーパーグローバルユニバーシティや地域協働系学部への進学割合)	25%	42.6%(20名)
卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数(関係人口数)	20人	52人
地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）	R6 目標	達成状況
主体性、協働性、探究性、社会性における「自己能力認識」で肯定的意見が75%以上	78%	主体性:69.1% 協働性:75.3% 探究性:72.9% 社会性:72.7%
主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が80%以上	83%	主体性:75.8% 協働性:71.6% 探究性:72.0% 社会性:60.5%
安心・安全の土壤、多様性の土壤、対話の土壤、開かれた土壤における生徒の肯定的意見が90%以上	90%	主体性:61.3% 協働性:89.0% 探究性:77.4% 社会性:68.9%

成果と課題

【成果】

- 独自の伴走・支援体制構築と運用
- 成果目標(アウトカム)に関し、目標値を上回る進路実績
- 成果目標(アウトプット)に関し、地域共創科生徒の自己認識の大幅な伸び
- 持続可能な学習スタイルとしてのゼミの確立とゼミ単位における他学年との相乗効果

【課題】

- 新学科に関する地域の理解・浸透に向けた方法の確立
- 伴走を支援する人的リソース(人材バンク)の拡大
- 生徒一人ひとりの活動の継承、アーカイブ

## 【愛媛県立三崎高等学校】社会共創科（令和6年度設置）

## 【目的】

- ・ **変化の激しい社会を**  
たくましく生き抜くことができる人材の育成
- ・ **地域社会とつながる人材の育成**
- ・ **地域社会学を教育課程に位置付けた**  
STEAM教育・キャリア教育の推進

## 【特色・魅力ある教育の概要】

- ・ **みさこうSTEAM教育** ・ **地域社会とつながる授業**
- ・ **みさこうせんたんプロジェクト**

## 【関係機関との連携・協働体制の構築方法】

## (運営指導委員会)

- ・ 三崎高校における本事業の運営に関し、専門的見地から指導・助言・評価等を実施

## (県教育委員会)

- ・ 地域魅力化コーディネーターの配置
- ・ コンソーシアムへの参画
- ・ 「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」など、県が実施している事業への参加に係る支援

## 【令和6年度の目標】

- ・ 社会共創科のスタート
- ・ 未咲輝ゼミの本格運用
- ・ 「教科等横断型授業」の実施
- ・ 地域と連携した学校設定科目の実施
- ・ 社会とつながる教育課程の編成

## 【成果】

- ・ 授業時間数を週33単位から週**29単位**に変更
- ・ **探究活動を軸とした新たな3コースに改編**
- ・ 地域魅力化コーディネーターの配置による事業推進体制の強化
- ・ 「地域特別講師データベース」の活用による**連携人材の増加**
- ・ STEAM教育、教科横断型授業に関する職員研修及び実践

## 【取組状況】

- ・ 授業内外・校外で他者と協働する形の活動の充実
- ・ インターンシップ受入れや未咲輝ゼミ講師依頼等における、「地域特別講師データベース」の活用
- ・ 教科等横断型授業の実施（例）「防災」→理科×保健体育
- ・ 社会共創科の**新しい教育課程**の編成

## 【課題】

- ・ スケジュールの管理・調整
- ・ 全国から入学してきた生徒たちとの高校卒業後の連携  
→ **ICTやオンラインの活用**  
→ 「**オンラインせんたん部**」「**花橘会**（卒業生のオンライングループ）」など、支援組織の構築

## 【新しい取組の計画】

- ・ **トライブ・ラーニング基礎…地域や人・モノの魅力を再発見し、その価値を発信していく力を育成する**ための学校設定科目
- ・ 「未咲輝（みさき）ゼミ」…放課後等の時間に外部人材を講師として、**生徒の興味・関心に合わせた、より自走性の高い探究活動**を行う。10講座程度開設。

【高知県立清水高等学校】 未来共創科 （令和7年度設置 学際領域学科）

清水高校の学際的学び「ジョン万次郎×SDGs」

SDGsについて、ジョン万次郎の生き方や考え方と重ね合わせながら探究する。また、小中高が一貫して取り組むことができるような系統的なカリキュラムを開発する。

目指す人物像 21世紀のジョン万次郎

- ①自然科学、社会科学、人文科学の各分野について、横断的に学び、専門性にとらわれない柔軟な思考を身に付けている。
- ②課題や目的を自ら設定し、国際的な視野で問題を解決しようとする態度を身に付けている。
- ③多様な他者と協働して新たな価値を創造する力を身に付けている。

令和6年度の目標

- ①特定の分野に偏らない学びを実現させるため、文理融合した教科等横断的なカリキュラムを開発する。
- ②最先端の科学を学ぶため、自然科学・社会科学・人文科学等の分野について、大学、研究機関、官公庁、民間企業等と連携する。
- ③国際的な視野を身に付けさせるため英語教育を充実し、国際交流を促進する。
- ④コンソーシアムと連携し、学校内外が一体化した教育活動を行うことで、社会に開かれた教育課程を実現する。



「県外高等学校との交流・成果発表会の実践」  
日々の学習では見つからない視点や考え方を得て、学習意欲・進路意識・コミュニケーション能力等を向上させる実践事例。



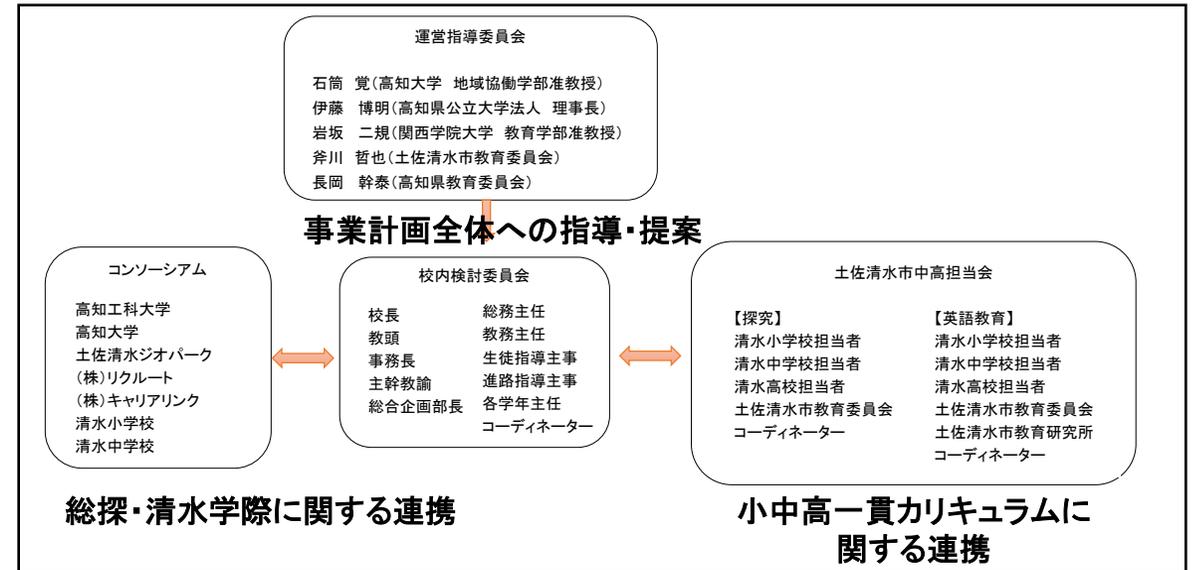
「SDGsに関する探究的な実践」  
SDGsの実際について外部機関と連携し、知識を得ることで、自分の考えを構築する実践事例。



「グローバル人材育成を目指した実践」  
海外への短期留学や、交流校とのオンライン交流を通じて、実践的な英語力を身に付け、国際的な視野を育成する実践事例。

推進体制

運営指導委員会からの助言等を校内検討委員会において具体的に取組案として策定し、コンソーシアム及び小中高担当者会で実践例に係る協議を行い、実践する。



総探・清水学際に関する連携

小中高一貫カリキュラムに関する連携

成果

- ①新学科設立に向けた具体的なカリキュラム開発のために、総合企画部を新設し、学校設定教科科目「清水学際」についてカリキュラム開発ができた。
- ②台湾との交流や発表会をとおして、異文化を体験し、意欲的にコミュニケーションを図ることで、英語運用能力の向上につながった。
- ③運営指導委員会等からの助言により、教育計画全体を見直すことができた。

課題

- ①清水学際のカリキュラム運用について、関係機関やコーディネーターと、より連携を深める必要がある。
- ②グローバルな視点を育成するために、より国際理解教育を充実させる必要がある。
- ③教育活動の発信が不十分なため、オンラインなどを活用し、保護者や地域が関心を持つ機会を拡大させることが課題。

## 【福岡県立八幡高等学校】学際領域学科(令和6年度設置)

スクール・ミッション 自身の幸せな人生と、未来の幸せな社会を、しなやかに創造する心豊かな人材を育成する学校

文理分断的思考からの脱却

持続可能な社会をしなやかに根気強く創ろうとする姿勢

### 教科科目横断型授業

複数の教科科目を融合することで初めて見えてくる物事や事象の諸相を分析することで、学問と社会との繋がりや、生きる上での学問の意義を感得させ、自ら主体的に学問に向き合っていく姿勢を育成し、実践につなげる。



### 夢現∞プロジェクト

SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴って生じる課題に着目し、将来の国際社会及び日本社会における課題の発見・解決に資する知識、技能の習得と、その活用に関わる思考力、判断力、表現力を育成し、実践につなげる。



### 特色ある教育活動

コーディネーター

- ① 学校と地域をつなぐ調整役
- ② 教員と生徒をサポート

### 運営指導委員会

管理機関・行政機関・教育機関で構成される

- ① 学校行事や教育活動に関する指導・助言
- ② カリキュラム検討に関する指導・助言
- ③ 事業全体に関する指導・助言

指導・助言

### コンソーシアム

八幡高校・行政機関・教育研究機関・地元企業で構成される

- ① カリキュラムの検討
- ② 評価方法に関する検討
- ③ 事業進捗状況の確認
- ④ 探究活動への指導・助言
- ⑤ 生徒探究活動への参加協力



### 関係機関との連携・協働体制の構築

### 令和6年度の目標と取組

〈目標〉

- 新学科「文理共創科」設置と関係機関との協働体制の継続
- 特色ある教育活動の体系化と外部への情報提供(公開授業等)推進

〈取組〉

- 意識調査の実施
- 定例会議(校内・運営指導委員会・コンソーシアム運営会議)の実施
- 教科科目横断型授業と夢現∞プロジェクト成果発表会の公開

### 令和6年度の成果と課題

〈成果〉

- 多角的な視点を持ち対話することの大切さを実感している(意識調査結果)
- 多様な視点から指導・助言を頂き、産学官協働体制が強化された
- 特色ある教育活動の成果を、広くPRすることができた

〈課題〉

- カリキュラムマネジメント(主に評価)に関して検討を継続する
- 新たな関係機関との連携を密にし、専門的な視点から指導・助言を求める

- 事業終了後のCNの継続配置

【北九州市立高等学校】 地域社会に関する学科「未来共創科」（令和6年度設置）

スクール・ミッション

市内唯一の「市立」高等学校の強みである北九州市のリソースを活用して、  
**「産・官・学・民」と連携・協働しながら、**  
**絶えず変化する未来の社会や世界をけん引する若者を育成します。**



令和6年度の目標

- 本校が提供する教育方針や学びの周知、理解促進
- 更なる入試改革（推薦入試の廃止、コミュニケーション型選抜に加え、多様な資質・能力を持つ生徒を募集するための選抜方式の工夫改善）
- 産官学民と連携・協働した授業づくり
- 学年・学校種の枠組みを超える学びの充実

取組状況

- ✓ 学校設定教科「イチリツ・プロジェクト」の本格実施
- ✓ 学則改正  
（情報ビジネス科の募集停止、新学科への1本化）
- ✓ スクール・ポリシーを踏まえ、多様な選抜方法を導入した特色化選抜（A・B・C方式）
- ✓ 中学生を対象とした特色化選抜体験会
- ✓ 入試における外部評価者の活用
- ✓ コンソーシアム及び運営指導委員会の開催
- ✓ コーディネーターの配置（3名）
- ✓ DXハイスクールの指定
- ✓ 北九州市立大学と連携した授業づくり
- ✓ 外部人材による出前授業等
- ✓ 福岡県中小企業家同友会との連携による共育型インターンシップの実施
- ✓ 他の指定校生徒との交流、合同PJの実施
- ✓ Aiを活用するなど、生徒に手に取ってもらうためのコンセプト・ブック（パンフレット）づくり

成果と課題

- （○：成果、●：課題（R7への持ち越し））
- 大学教授や学生インターン等との日常的な接点（よいロールモデルとの出会いの場）
  - 共育型インターンシップを通じた、地元企業との関係強化、市高の知名度の広がり
  - 特色化選抜における志願倍率の維持
  - 授業の中でのグループワーク等の定着
  - 入学者選抜方法の更なる改善
  - 大学や行政、企業などからの依頼対応（取捨選択の難しさ）
  - 学校設定教科などのカリキュラムの効果測定
  - 生徒の主体性に焦点を当てたカリキュラムの継続及び持続的な発展
  - 人事異動等で「プレーヤー」が変わっても魅力化や改革がつながっていくシステムの構築
  - 学校改革を持続可能なものにするための外部有識者会議の設置

【長崎県立松浦高等学校】地域科学科（地域社会学科）（令和4年度設置）

目的

地域社会の未来を担うリーダーの育成  
～目指す資質・能力の涵養と地域活性化への貢献～

目標

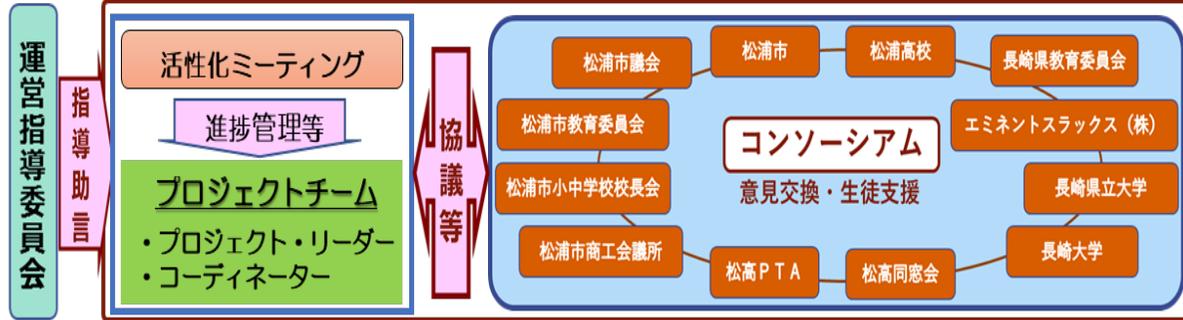
- Ⅰ 生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現
- Ⅱ 中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献
- Ⅲ 県内外の「地域高校」との連携等による学校活性化

特色・魅力ある教育の概要

地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的な学びに重点的に取り組む  
(研究テーマ例)

- アジのうろこの活用～コラーゲンを抽出して商品化する～
- あらゆる人のための町づくり～高校生自主防災組織をつくる～
- 動物保護 ○手話を広める ○民話のアニメ化 など

関係機関との連携・協働体制の構築方法



令和6年度の目標

実施内容（取組状況）

令和6年度の成果（○）

令和6年度の課題（●）

計画Ⅰ

地域科学科1回生のキャリアプラン実現に向けたプロセスの検証等による総括、次年度以降の計画策定

- 生徒たちの興味・関心から研究テーマを設定し、その実践活動や解決策について発表した。
- ルーブリックによる各活動の自己評価を行った。個人でも自己目標を立てた。
- 各活動を「松高ポートフォリオ」に記録し振り返りを行った。

- テーマ設定後の班編成の際に、担当教員と生徒がこれからの探究活動についてミスマッチがないか面談を行った。
- 身に付けさせたい7つの力をルーブリックにまとめているが、今年は生徒個人の目標をつくる取組を行った。

- 探究活動の短期・中長期的な目標をしっかりと提示した教員間の共通理解が不十分である。
- 問題解決に必要なデータの収集・活用・分析力の育成が不十分である。
- キャリア形成につながるような探究テーマに導くことが不十分である。

計画Ⅱ

地域・学校活性化に向けた、3年間の生徒支援の検証等による総括、次年度以降の計画策定

- 長崎大学の支援のもと、地域素材を活用した授業づくりに取り組んだ。
- 発表会に地元の社会人や長崎県立大学の学生等を招き、多方面から助言をもらうことができた。
- 各班の活動に大学生に伴走してもらい、探究活動を充実させることができた。

- 各教科地域素材を活用した授業づくりに取り組み、地歴公民科では、中学校との合同授業も行った。
- 大学生1、2名を各班に入ってもらい、探究活動の進捗状況などについての壁打ちを3回以上実施できた。
- 「まつうら高校応援団」にはフィールドワーク等で多くの支援をもらった。

- 情報理解・収集力を高めるためのスキルの育成が不十分である。
- 地域素材を活用した授業づくりを行う中で、大学による支援を継続性のあるものにしていく必要がある。
- 探究活動を進めるための地元事業所とのマッチングがまだ不十分である。

計画Ⅲ

「地域高校」ネットワークの3年間の取組の検証等による総括、次年度以降の計画策定

- 生徒間交流の一環として県北高校生探究フォーラムを実施。6校参加でポスターセッションやワークショップを行った。
- 立命館宇治中高のWWLコンソーシアムに参加し、本校生徒が発表した。
- 全国防災会議に1年生2名が参加。本県開催であったため、ウェルカム行事などをその中心となって企画・運営した。

- 県北高校生探究フォーラムを実施して他校生との交流によって、生徒の探究活動に対する意識やキャリア意識の高揚を図ることができた。
- 専門家による評価についての研修会を他校職員も参加して実施した。

- これまで連携してきた県内の「地域に根ざした高等学校」との関係性を継続しつつ、各校魅力化に向けた生徒間交流等を計画する。
- 外部（校外）コンテスト等で高評価を得る探究活動を増やす。

# 【宮崎県立飯野高等学校】地域社会学科※令和8年度設置予定による新時代の学校デザイン

2050年の“未来”を変える高校教育のグランドデザイン ～未来共創地域を創る（消滅可能性自治体からの転換を図る）グローバル人材育成～

本校の所在地である宮崎県えびの市でも地域社会が直面する様々な課題の解決を図るため、高校と地域との協働による新時代の人材育成に向けた新たな高校づくりが必須である。グローバルな複眼の視点で地域課題を俯瞰・分析し解決に向けてアクションを起こす人材を育成するため、創造的なカリキュラムにより以下を実現する学科の設置を目指す。

- ①次世代に必要な力を地域と共有する学びへの転換
- ②画一的な普通科の在り方を見直し、共学・共育により教育マインドの転換
- ③地域社会の様々な分野におけるリーダーを育成する地域創生の拠点形成

## 未来を創る新時代のカリキュラム「地域学」～新たな普通科の核となる探究活動のカリキュラム体系～

1 学年 全学科共通（共創探究科・生活文化科）

### えびの学

新カリキュラム ローカルDX学

2・3学年 共創探究科 <sup>+</sup>  
新たな普通科

生活文化科

総合キャリアコース

探究イノベーションコース

グローバル貢献活動

グローバル探究活動

グローバル支援活動

生徒の多様な能力・適性・興味・関心に応じた学びを実現

学びの往還

### 普通教科

#### 学びの往還を考える職員研修

- ・これまでの探究活動を柱に各教科での実践
- ・教科横断による探究的な学びについて
- ・地域との協働による各教科の学び

#### コーディネーターの配置 (常駐2名)

- ①進路指導部内への配置・毎週のMTG
- ②探究活動における外部とのコーディネート・伴走
- ③生徒募集にかかる活動

ローカル+グローバルで地域課題を俯瞰して考え、実践する活動を展開

県外・海外研修へのチャレンジ 約50名  
課題を俯瞰し、間から解決にむけて地域で実践。

外部リソースとの連携強化

共創パートナー制度の実施

37名登録

- ・探究活動におけるアドバイザー、サポーター的役割
- ・宮崎大学教員（元CN）とのCN向け研修・共同研究

### ”地域学”

探究活動が柱の  
カリキュラム  
共創する  
新時代の学び

DXハイスクール事業

テクノロジーを活用した地方創生

普通科改革推進事業

新時代のカリキュラム

普通・専門教科との

往還による授業改革

海外の地域創生

海外大学との連携事業

※中華医事科技大学(台湾)との相互研修

WWL連携事業

(ワールドワイドラーニング)  
国内外の高校との連携事業  
※拠点校 立命館宇治高校(京都府)

みらいハイスクール

構想事業

えびの市、地域事業者

・団体との共創した取組

地域・教育魅力化

コーディネーター事業

デザイン思考などを活かした新たな  
学びの手法を導入した探究活動

#### 超探究の日の実施

外部講師による様々な学びやワークショップ、対話  
探究プロジェクトに終日取り組み、普段得られない学び

コンソーシアムによるサポート

飯野高校を守り育てる市民の会

「共学」「共育」  
の視点による地域  
と連携・協働

魅力化コアチーム委員会

高校を核とし、地域社会全体で「共創」する人材の育成

## 【熊本市立必由館高等学校】文理総合探究科（地域社会学科 令和6年度設置）

**教育理念：自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校を目指す**

## 革新的な教育活動の実践

## 《育成する資質・能力》

- I 多様な価値観を尊重し、新たな価値を創造する力
- II 社会に関する理解を深め、地域の課題や魅力を見出す力
- III 分野横断的に課題を分析し、論理立てて表現する力
- IV 自己の興味・関心に応じて、生涯にわたって学び続ける力

## 《特色・魅力ある先進的な教育の取組》

## ①少人数によるクラス編制、生徒が主体的・協働的に学ぶ仕組

多様な生徒へのきめ細かな指導、支援を実現 1クラス30人または35人の少人数によるクラスを編制(令和6年度入学生から)。生徒が主体的・協働的に学ぶことのできる授業づくり

## ②「学校設定科目 必由学」の新設

持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育み、「Well-being」としての社会情緒的能力などを醸成

## ③熊本市役所等、地域社会の資源を活用した課題解決型学習の充実

市役所の全面的な協力体制のもと、市立ならではの教科等横断的・探究的学習

## ④探究活動等で収集したデータを科学的に分析・検証し活用する力の育成

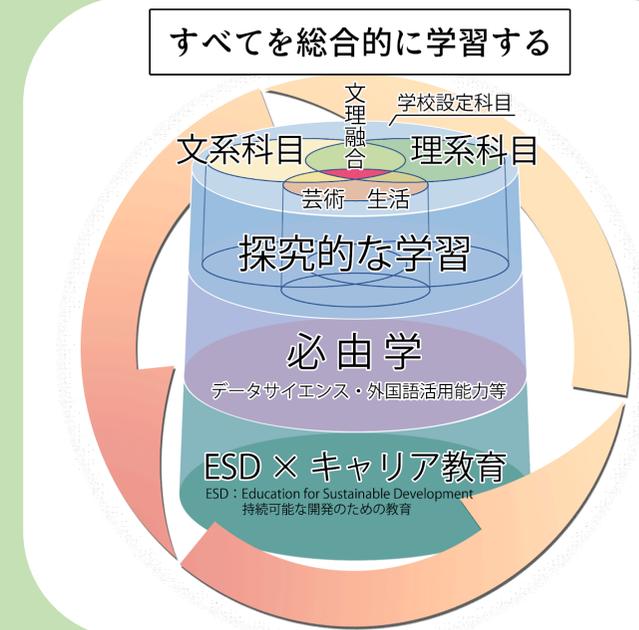
ICTを活用することにより、課題解決に向けデータを科学的に分析・検証し、表現する力を育成

## ⑤生徒・教師が主体的に学校づくりに参画する Agency School

生徒が授業づくりや校則の策定・見直しなど、生徒が学校創生に参画教育実践及び教育的効果を積極的に国内外に還元するとともに、自らの学びは自らが創る Agency School



## 『文理総合探究科』での学び（イメージ図）



## 目標

①少人数によるクラス編制、生徒が主体的・協働的に学ぶ仕組

②「学校設定科目 必由学」の新設

③熊本市役所等、地域社会の資源を活用した課題解決型学習の充実

④探究活動等で収集したデータを科学的に分析・検証し活用する力の育成

⑤生徒・教師が主体的に学校づくりに参画する Agency School

## 成果

令和6年度入学生から文理総合探究科 文理コース35名×7クラス 芸術コース30名1クラス 生活デザインコース30名1クラスの少人数クラス編成とした。教職員数は現状を維持しながら、少人数学級を実現することで、多様な生徒へのきめ細かな指導・支援を実現する。少子高齢化時代における新たな学校の在り方として、生徒が主体的・協働的に課題解決に向けて議論や検証、考察ができるような授業づくりを実現するとともに、指導法の工夫・改善の研修を充実させ、教職員の指導力向上を図る。

・社会ではばたくための基礎力を身に付ける  
コアスキル（12回/年） データサイエンス（8回/年） 多文化理解（7回/年）

・市役所全庁の全面的な協力のもと、地域・社会が抱える課題に対して様々な観点から仮説を立て、専門家や地域の力を借りながら自分の考えを深め、課題解決への糸口を見出す課題探究型の学習を行った。高校生が社会の一員として地域（熊本市）のよさや課題等を自分事として捉え、自己のキャリア形成と関連付けながらよりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育むことができるよう今後も取組内容のブラッシュアップを図る。

令和6年5月23日「感じる探究！ in 必由館」 令和7年3月21日「探究フェスタ ～学びのシェアタイム～」の実施

学校教育目標「出あう つながる ともに創る ～必由館でやりたいをカタチに～」を策定  
職員へは外部講師による授業改善校内研修研修により本校教職員全体の主体的・対話的な深い学びの一層の充実を図ることができた。生徒へは各種イベントへの参加を通して、異なる地域、高校に通う生徒とともに社会課題について考え、議論を重ねることでのAgencyを高めることできた。